

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンによる 此花区への影響

経済学部 4 年 岡 美 彩

<目次>

I. はじめに

V. 此花区と浦安市

II. 此花区の基本構造

VI. まとめ

III. 人口動態

参考文献

IV. 事業所動態

I. はじめに

「人間界をでよう」

これは大阪市此花区に位置するハリウッド映画を元にしたテーマパークであるユニバーサル・スタジオ・ジャパン（以下USJ）のテレビCMに出てくるフレーズである。このテレビCMでは、2014年にオープン予定のハリポッターという魔法学校を舞台とした映画を元にした新エリアを紹介している。このテーマパーク内ではまさに日本を出たかのようなリアルな外国の街並みが再現されている。他にも新エリアやアトラクション、また季節ごとのイベントなどが次々と登場し、その度に多くの人々が来園する大規模なテーマパークである。「関西のテーマパークと言えば？」と問えばこのテーマパークを思い浮かべる人も多いのではないだろうか。表1は2001～2011年度までのUSJの1年間の来園者数を示したものである。

オープンした2001年度は1,103万人の来園者数であったが、翌年度に764万人にまで減少した。その原因として、2001年3月31日のオープンから11月末までの8か月間にわたり配管ミスによりパーク内の飲水器に工業用水が流れていたことが水質検査により判明した不祥事が挙げられる。その年度以降の

表1 USJ来園者数推移(単位:万人)

2001 年度	2002 年度	2003 年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度
1,103	764	989	810	831	870	864	814	800	816	880

出所: OSAKA ビル景

来園者の増加は、先述の頻繁に導入される数々の新アトラクションや『ハロウィーン・ホラー・ナイト』などの期間限定のイベント¹⁾により、その増減はあるものの年間約800万~900万人の来園者がここを訪れている。つまり大阪市此花区桜島2丁目にあるこのテーマパーク目当てに此花区に毎年数百万人規模の人々が訪れているのである。このことから私はUSJという大きな集客施設ができることによって、周辺地域である此花区にどのような影響があるのかを調べていこうと思う。

本論の構成としては、第二章では、此花区について歴史や路線、埋め立て地などさまざまな面から説明する。第三章では、此花区の人口増減を地図上に表現し、USJ開園により人口はどの地域でどのような動きを見せたのかについて論じる。第四章では此花区の事業所数の推移を地図上に表現し、此花区の事業所分布の変化について見る。第五章では此花区の治安に変化があったのかを論じ、第六章では日本で一番の規模と集客数を誇る東京ディズニーランドが立地する千葉県浦安市との比較を試みる。最後に本論の結論をまとめる。

II. 此花区の基本構造

まず、この論文のテーマの舞台となる此花区について概略する。USJがある此花区は大阪市24区の中の1区である。大阪市中部西端に位置しており大阪湾に面している。さらに、淀川と安治川に挟まれているため、かつては漁業などが盛んに行われていた。一方で、江戸時代に大きな水害の被害を何度

も受けている。そのため湊標住吉神社や西九条神社などいくつかの神社で海上の守護神である住吉大神が祀られており、1854年の津波（安政の大津波）の犠牲者の慰霊碑が建立されている。さらに高見地区などに広域避難所の掲示板が設置されている。また、此花区の特徴として海上の埋め立てが江戸時代から盛んに行われているため、此花区の高見地区などはかなり低く（大半が海拔0メートル地帯）、これも水害を受けやすい理由の1つである。埋め立てにより舞洲や夢洲といった人工島を造成しており、舞洲は2008年の大阪五輪招致のメイン会場のために造成されたものであったが落選。その後しばらくは土地開発が進んでいなかったが、テクノポート大阪計画で大阪市内に位置するという好立地などを背景にして此花区を物流の拠点とする動きがあり、舞洲の海岸沿いに倉庫が多く存在し、味の素（株）やニチレイ（株）などさまざまな企業の物流センターが点在する。また舞洲には住民がほとんどいないため反対運動が起きにくく、焼却場が作られるなど土地開発が進む。現在舞洲はスポーツアイランドとして整備が進められており、舞洲障害者スポーツセンターアミティ舞洲や舞洲ベースボールスタジアム、舞洲スポーツアイランドシーサイドテニスガーデン舞洲などスポーツ関係の施設が多く見られる²⁾。

次に此花区における土地利用の特徴として、主に東側に住民が住んでおり西側には大阪ガスや住友電工などの大規模な工業施設が集まっている。このような土地利用は長く変わっていない。また、工場が建つ前は田畑などがあったがその当時から区の西部には住宅はあまり建っておらず、今でも一部を除き西部は工業施設が大きく占めている。そのためコンビニエンス・ストアや飲食店、食料品店などの店舗は極端に少ない。区内にはいくつかの商店街、スーパーマーケットがあるが、そのいずれもが西九条や伝法、高見など東部に集中している。さらに西部に行くにつれ道路には大型コンテナ積載車や大型トラック、商業用車やバスが多く通るようになりその道路には横幅の大きな歩道があるのだがそこも一部整備されず通行できないところが目立ち人通りの少なさを感じさせる。

此花区内の交通手段としては阪神なんば線とJRゆめ咲線という2つの鉄

道路線が通っており、表2は1990～2008年の2つの路線各駅の1日の平均乗降者数を3年ごとに示したものである。

区の東部を通る阪神なんば線は此花区内に伝法駅、千鳥橋駅、西九条駅の3駅があり、表2を見て分かるように1990年から伝法駅は2005年まで、西九条駅は2002年まで、千鳥橋駅は2008年まで乗降者数は減少している。そして此花区を東西に結ぶゆめ咲線は西九条駅から桜島駅までを結んでいる。JR大阪環状線の西九条駅から分岐して、安治川口駅・ユニバーサルシティ駅・桜島駅の4駅ある。もともと西九条駅から桜島駅間は独立した路線ではなく、西成鉄道を鉄道国有法により買収した西成線の一部を1961年の大阪環状線全通時に分離したものである。ゆめ咲線開通当時は桜島線とよばれ、沿線工場への通勤や貨物輸送を主目的として利用されていた。だが2001年以降は主にUSJへのアクセス路線として利用されるようになった。たとえば、大阪環状線からユニバーサルシティ駅までの直通列車が運行されている。またダイヤも改正されており、2001年以前は平日上下約80本であったのが、現在では平日上下約200本と開園前と比べて実に2.5倍以上に本数が増え、USJにより此花区内の交通の便がよくなったと言える³⁾。

表2を見るとUSJ開園後に桜島駅の乗降者数が増加したが、西九条駅では

表2 1日当たり平均乗降者数(人)

	JR 西九条	安治川口	ユニバーサルシティ	桜島	伝法	千鳥橋	西九条
1990年	58,566	20,502	—	13,550	7,396	8,606	23,851
1993年	57,748	23,442	—	13,538	7,911	7,839	24,180
1996年	57,342	23,688	—	12,500	7,567	6,832	22,562
1999年	50,198	23,216	—	6,210	6,656	5,309	19,510
2002年	47,338	20,488	27,602	15,718	5,792	4,696	19,121
2005年	46,302	22,482	28,644	14,110	5,605	4,542	19,280
2008年	49,112	24,338	32,530	14,842	5,964	4,355	20,634

出所：駅別乗降者数総覧 1996年～2011年を元に筆者作成

2005年まで減少し2008年には増加に転じている。安治川口駅では1990年から減少し2005年から増加に転じている。この駅の周辺には新大阪郵便局という大規模な郵便局があり、この郵便局の従業員などが通勤のためにこの駅を利用している。これらの結果から乗降者数はユニバーサルシティ駅、桜島駅以外の駅ではUSJ開園後に大きな変化は見受けられない。

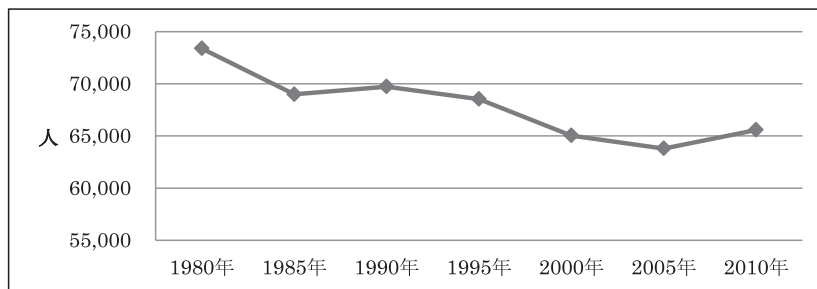
Ⅲ. 人口動態

本章では此花区の人口動態についてみていく。図1は1980～2010年の此花区の人口を5年ごとにグラフで表したもので縦軸に人口、横軸に年をとっている。

此花区の人口推移⁴⁾について、区全体で見ると人口は1990～2005年まで減少しており、2006年から増加に転じるが、1980年と比較してみると減少している。

次に此花区の人口増減を地図上に表現する。図2⁵⁾は此花区の町丁目別の人口推移を地図上に示したもので、各年の5年前の値を100として1990～2010年まで5年ごとの人口変化を地図上の色の濃淡で示している。

図1 此花区の人口



出所：大阪市統計書（平成2年～23年）を元に筆者作成

图 2 (a) 1990年此花区人口指数



图 2 (b) 1995年此花区人口指数

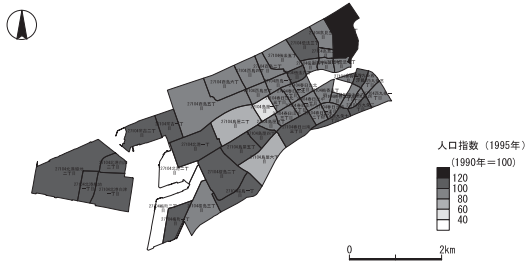


图 2 (c) 2000年此花区人口指数



图 2 (d) 2005年此花区人口指数



図 2 (e) 2010年此花区人口指数



まず図 2 (a) の1990年を見ると高見 1 丁目では1,762人から4,520人と大きく増加している。1990年はUR都市機構による高見フローラルタウン四番街、五番街、六番街、七番街（家賃約5万～12万円）が1987～1995年にかけて完成した。戸数は四番街に360戸、五番街に約230戸、六番街には約350戸、七番街には約760戸存在しており、高見フローラルタウンは地震で大火災になった時などの大規模な避難に適する場所として広域避難場所に指定されているほど大規模なマンション群である。高見フローラルタウン建設時に大阪市立高見小学校がこの施設内に移設され、周辺にはイオンなどの小型小売店舗や病院、不動産や郵便局などが集まっている。また伝法や千鳥橋駅に近く、高見フローラルタウンを中心にした地区が形成され便利な生活環境が整っている。次に西島 3 丁目の人口が2,700人から3,574人に増加し、西島 6 丁目では1,185人から1,880人に増加した。西島 3 丁目には大阪ガス西島の社宅があることに加え、総戸数が367戸あるシティハイツこの花というマンションが1987年に建設されている。6 丁目には1986年にルネ・パークプラザという総戸数233戸のマンションが建っており、いずれも約6万～8万円までの賃料となっている。1995年の地図をみると、ここでも高見 1 丁目の人口増加が大きい。これは先述と同じく高見フローラルタウンによるものである。

図 2 (c) の2000年を見ると西島 4 丁目では574人から2,153人に増加している。これは1998年4月に完成した西島リバーサイドヒルなぎさ街（家賃は61,700～120,400円）という9～11階建てが4棟、40階建てが1棟、戸数は約

760戸のUR都市機構が管理する大きなマンション群ができたことによるものである。次に2005年には西島5丁目では360人から746人に増加、島屋2丁目では430人から780人に人口が増加している。西島5丁目には近年モデルハウスが数多く建てられ、新しい家々が建ち並ぶ区画となっている。島屋2丁目には2002年にルネアムパセオ（家賃約10万円）という11階建て（総戸数95戸）のマンションが建った。最後に図2（d）の2010年に、人口が増加している西九条6丁目には総戸数365戸のグランドメゾン西九条BIOが2009年に完成した。ユニバーサルシティ駅のある島屋6丁目も0人から3,164人に人口が増加しており、ここには2007年完成の20階建てマンション、リバーガーデンシティさくらの丘や2009年に完成した総戸数178戸15階建てのキングマンション大阪ベイなど（家賃は約10万円前後）の高層マンションが同駅近くに造られた。

この図2で示した人口変動は主にUSJ開園以前に建設された大阪市や、UR都市機構などによって建設される大規模なマンションなどの集合住宅によるものであると言える。此花区では持ち家世帯が全体の43.9%、賃貸世帯が56.1%となっており後者の方が多い。また賃貸世帯の中でも民営の借家が5,696世帯、土地機構・公社の借家が8,685世帯と約3,000もの差があり、土地機構・公社の借家に住んでいる人の方が圧倒的に多い。つまり此花区ではUR都市機構や大阪市営の借家が多く存在し利用されている。此花区全体として見てみると、USJ開園が人口の増加に影響したような証拠は現時点で表れていない。さらに人口は西九条（2010年時点で7,669人）や高見（2010年時点で11,282人）、伝法（2010年時点で11,530人）などに多く、かつてから東部に人口が集中する此花区の人口構成にも変化は見られない。

Ⅳ. 事業所動態

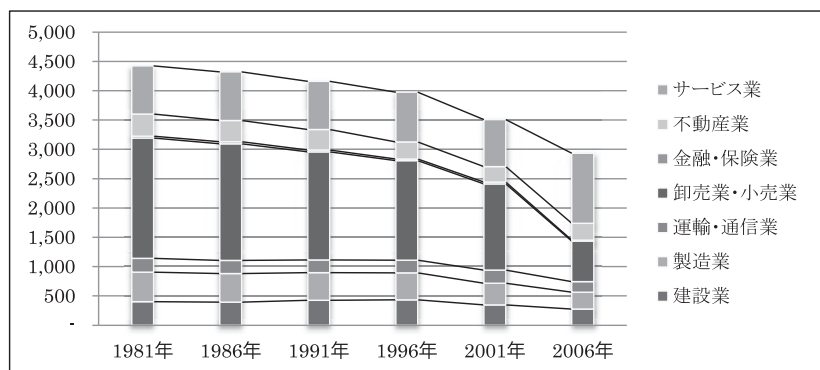
次に本章では此花区の事業所数について概略する。此花区に立地する事業所は1981年時点で4,447であったものがその後は減少に転じ、2006年では

2,939となっている。25年間で約1,500もの事業所が減少していることになる。此花区の事業所は主に此花区の東部に集中しており、それらは主に此花区内を東に結ぶ北港通り沿いに集まっており、西にいくほど古い商店が目立つ。コンビニエンス・ストアは東部の駅周辺に集まっており、主な病院はかつてから住宅が集中していた春日出北に集まっている。さらに、大阪中心部に近く阪神高速2号淀川左岸線が区内を通り交通環境が整っているため、佐川急便やヤマト運輸、新大阪郵便局などの運輸業の企業も此花区に集まっている。また関西電力西島発電所、大阪ガス西島（製）や大阪ガスオートサービスなど大阪ガス関連の事業所もいくつかあり、（現在は稼働を停止しているが）1918年に当時の最先端技術を駆使し東洋一と言われた春日出発電所が建設され、その後80年間稼働を続けた。

続いて此花区の業種別（サービス業、不動産業、金融・保険業、卸・小売業、運輸・通信、製造業、建築業）事業所数の推移（1981～2006年）を図3で確認する。全体の事業所数としては大阪市と同じく2006年時点までは減少傾向⁶にある。

業種別に見ていくと、1991年では此花区全体の事業所数4,175か所のうち、最も多い産業は卸・小売業で事業所数は1,845か所、次いでサービス業の822

図3 此花区業種別事業所



か所、その次が製造業の474か所である。一方2006年では此花区全体の2,945か所の事業所のうち、1991年から変わらず卸・小売業の事業所数が1,207か所と一番多くなっている。次いでサービス業の679か所、その次は製造業で288か所である。しかしUSJが開園した2001～2006年の事業所数の変化を見ると、卸・小売業が大きく減少している。その一方で、1996年からあまり変動が見られなかったサービス業が増加している。一方、不動産業、金融・保険業、運輸・通信業、製造業、建築業は多少の増減はあるもののほとんどが緩やかな減少傾向にある。

次に変化が大きかったサービス業と卸・小売業の2つの業種の事業所数について考える。図4は1996および2006年におけるサービス業事業所数を此花区の地図上に示したもので、色が濃いほど事業所数が多いことを示している。この比較により、USJ開園により、サービス業の立地がどう変化したのかをとらえることができる。

図4 (a) 1996年此花区町丁目別サービス業事業所数



図4 (b) 2006年此花区町丁目別サービス業事業所数

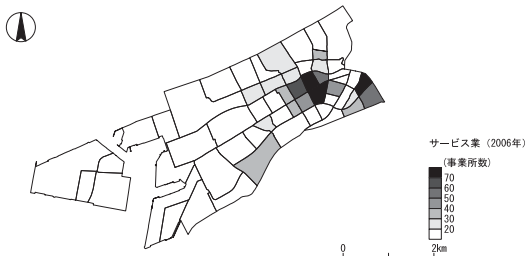


図4 (a) の1996年を見ると、住宅地と同じく此花区の東部に集中しており、特に西九条1丁目、3丁目、四貫島1丁目、2丁目、梅香1丁目、3丁目、春日出北1丁目、2丁目、春日出中2丁目、伝法2丁目にサービス業の事業所が集まっている。そして図4 (b) の2006年を見てもサービス業事業所は変わらず此花区の東部に集まっており、ユニバーサルシティ駅が立地する島屋6丁目にはサービス業事業所が少し集まったが、その他のUSJ周辺の地区にサービス業事業所が集まる動きは見られない。この地図を見ると、此花区のサービス業事業所は西九条や四貫島、梅香に集中しており主要駅周辺に分布している。USJ開園後もそれは変わらず事業所数は東部に集中していることが分かる。

次に卸・小売業の事業所について、図5は卸・小売業の事業所数を此花区の町丁目別に見たもので、1996年と2006年の卸・小売業の事業所数を地図上で表したもので、色が濃いほど事業所数が多いことを示している。

図5 (a) 1996年此花区町丁目別卸売・小売業事業所数

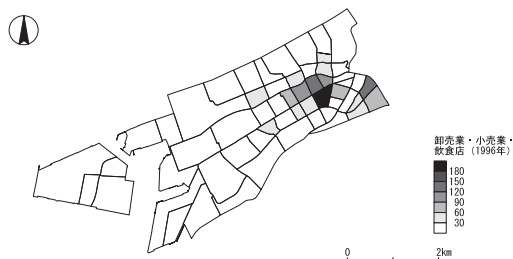


図5 (b) 2006年此花区町丁目別卸売・小売業事業所数

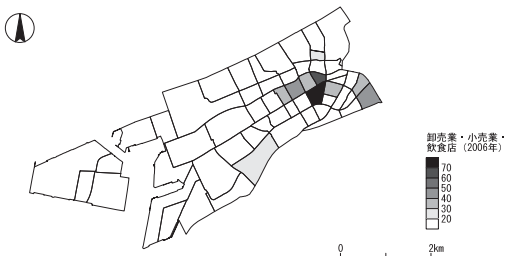


図5 (a) の1996年を見てみると、西九条1丁目、3丁目、四貫島1丁目、2丁目、梅香1丁目、3丁目、春日出北1丁目、2丁目に多く集まっている。次に図5 (b) の2006年を見てみると、四貫島1丁目、梅香3丁目と区の東部に集まっており、事業所数は減少しサービス業事所に置き換わっているものの、卸・小売業事業所も区の東側の西九条駅付近に集まっていることに変わりはない。

このように、サービス業、卸・小売業の事業所数は同じく東部の西九条駅周辺に多く集中しており、USJ開園後もその構造は変わらない。

V. 此花区と浦安市

此花区と千葉県浦安市は有名テーマパークがある周辺地域という点で共通しているため、この区と市を比べてみる。

浦安市の立地は此花区と同様海に面しており、深刻な水害の被害を過去に何度も受けている。その被害があまりに深刻なため住民が集団で浦安を捨てたことが何度もあるほどである。そのため此花区と同じく、海路安全・漁業繁栄などの海事一切の守護をもたらす神を祀っている清龍神社や、入船や海楽などの御利益をもたらす氏神を祀っている豊受神社など、海の安全に関する神社がいくつか点在している。水利に恵まれ、古くから海苔の養殖やアサリ、ハマグリ、イカ、イワシ漁などの水産業中心に栄え、漁師町として発展していた浦安市であるが、1958年に本州製紙江戸川工場からの工業排水⁷⁾が江戸川に流れ込み魚介類が大量に死滅するという事件が起きた。そのため1962年、漁民は漁業権の一部をやむなく放棄することとなり、その代わりに漁業権が放棄された場所を埋め立てて遊園地を誘致するという計画をたてた。それが東京ディズニーランド（以下TDL）である。1964年からさらに海面埋立事業が急速に進められ、ついに1971年、浦安市の漁業従事者は漁業権を全面放棄した。このように古くから埋め立て地の造成が進められており、第1期埋め立て地造成事業は1965年から開始され、第2期埋め立て地造成が

完了したのは1980年であった。この埋立事業で浦安市行政面積が元の面積より約4倍にまで拡大した。海面埋め立て事業に際する土地利用については、国の首都圏整備の観点から工業用地としての利用を規制する傾向があったため、住宅地の造成、大規模遊園地の誘致、鉄鋼流通基地の形成を基本方針として埋め立て地を利用している。USJと同じくTDLも埋め立て地にできている。埋立地は地震において液状化現象が起きやすいと言われており、実際に浦安市では2011年の東日本大震災で震度5強の揺れにより液状化現象が発生した。加えて浦安市にも海拔0メートルの場所があり海拔が低い。このため埋め立て地の海岸付近は一般の住宅地としての利用は嫌厭される傾向がある。そのためこの土地は主にテーマパーク・空港・廃棄物の処分場として利用され、海岸付近には火葬場を含む斎場などがありさまざまな用途に利用されている。浦安市の住宅は、特に東部から北部に集中している。そして近年マンション建設が増加しており、浦安市は千葉県内では1,000人当たりのマンション戸数が他の市より多く、総戸数50戸以下のマンションが全体のマンション数の約50%を占めており、此花区と違って小規模なマンションが多いことが特徴である。一方一軒家も多くみられ、浦安市では住宅地として利用される土地が大きく占めている。

浦安市では1983年にTDLが開園し、その当時の年間入場者数が1,000万人にもおよび、さらに開園から年々来園者数を伸ばしていき、2001年に開園した東京ディズニーシーの影響で年間入場者数は2,000万人台を達成し、2012年には両パーク合わせて2,700万人が来園している。また地価の面では東京都中心部に近いが地価は東京ほど高くない。浦安市に近い東京都渋谷区の地価と比べてみると、浦安市の地価は渋谷区の地価の約3分の1、一方此花区の地価は2010年大阪市中央部の地価の約6分の1である。次に、浦安市の行政面積は17.29km²であり、此花区の面積(16.94km²)とほぼ同じである。一方で、人口を見ると此花区は2010年に約66,000人であるが、浦安市の人口はTDL開園10年前の1973年には26,000人、2010年では164,000人と約30年で約6倍に急増しており、大都市に近いという好立地のためにベットタウン化

していることが分かる⁸⁾。面積はそれほど変わらないにもかかわらず、人口の増加は浦安市が著しい。浦安市が東京のベッドタウンとなる理由としては、TDLの開園以前の1969年に地下鉄東西線が開通し、浦安駅が開業したことによるものだと言われている。また1978年に首都高速湾岸線の一部が開通したことによって、自動車を利用する人にとっても便利な土地となった。このように交通の便が改善されることによって浦安市は東京のベッドタウンとして発展していった。東京中心部から近いという点と此花区が大阪中心部にアクセスしやすい立地にあるという点で浦安市と此花区は同じ条件のように思われるが、此花区では人口に大きな変化はない。

Ⅵ. まとめ

以上、これまで検討してきたことをまとめておく。

1. 1990年から2010年まで此花区の人口は緩やかに減少している。そして局地的な人口増加は主にUR都市機構や大阪市営のマンション群が建設されたことによる。
2. 此花区に立地する事業所数は減少しており、その主な要因となっている業種は卸・小売業の事業所数の大幅な減少によるものである。一方2001年からサービス業の事業所数は増加している。ユニバーサルシティ駅がある島屋6丁目ではサービス業、卸・小売業の事業所が少し集まったものの、此花区の事業所は変わらず区の東部にあり、USJ開園後もその構造は変わらない。
3. 海に面していること、埋め立て地が占める割合が大きいこと、大都市の中心部に近く交通の便が良いこと、巨大集客施設があることなど共通している点の多い此花区と浦安市であるが、人口増減、地価共にテーマパークによる影響が見られないというところも共通している。

これらの結果から、USJ周辺には来園客に向けたホテルや飲食店などが新しく開業されサービス業事業所が島屋6丁目に少し集まったが、USJ周辺の

他の地区には影響しておらず、区の東部に集中するサービス業、卸・小売業事業所の分布は変わっていない。USJ開園に伴うゆめ咲線のダイヤ改正で開園以前より区内の交通の便がよくなり、さらに此花区は大阪市中心部に近くアクセスしやすい。例えば此花区内で人口が集中している場所である西九条から出発すると考えると電車でJR西九条駅から約10分でJR大阪駅に到着する。さらに此花区は大阪市区の中で地価は安く、中心部から近いにもかかわらず2010年の地価は中央区、北区など中心部の地価の約6分の1である。このように居住することを考えると、交通の面でも地価の面でも大変便利で安価な土地のように思われるが、主にUR都市機構に管理されるマンションや市営マンションなどが建設されたことにより局地的に人口の増加は起こるが2005年まで人口は減少、2010年には増加に転じているもののUSJ開園後も人口に大きな変化はない。また此花区の構造や土地の条件に共通点のある千葉県浦安市を見ると、TDLの開園後特に地価や人口の増減などの動きはTDLによる影響が見られなかった。浦安市自体は東京都の渋谷区など都心から近いということでベッドタウン化は進んでいるがこの現象は開園以前から始まったものであり、これが進んだ理由としても地下鉄の東西線が開通したからである。上記の結果から見ると、USJは此花区の事業所分布、人口の増減の面で此花区に影響を与えていない。

注

- 1) 特にジェットコースタを逆向きに運行させる『ハリウッド・ドリーム・ザ・ライド〜バックドロップ〜』は期間限定のアトラクションとして登場したが、何度も期間を延長して運行され延長が決定される度にテレビCMで放送され、このアトラクションに乗るための待ち時間が7時間に及ぶなど大変な話題を呼んだ。
- 2) ただし交通手段としてはこれら人工島には電車は通っておらずバスか自動車で行くことになる。まず舞洲に渡るには此花大橋と常吉大橋のどちらかを利用する。夢洲へは舞洲から伸びている夢舞大橋を通るしかなく、またこの橋は歩いて渡ることができなくなっている。これらの橋を利用するのは大型コンテナ積載車など

- が多く、島内には運輸関係の企業が多く集まっておりこの人工島では通勤のために訪れている人が多く島内を歩いている人は少ない。
- 3) ゆめ咲線ではユニバーサル・スタジオ・ジャパン開園に伴い、安治川口駅の橋上駅化や信号設備の改良などの工事が行われた。
 - 4) ここでは詳細なデータを示さないが、大阪市全体の人口推移は1960年頃まで急激に増加していたが、1965年の約316万人をピークとして人口は減少しはじめる。約35年間人口減少が続き、その後工場跡地等の再開発によって高層住宅などが多く建設されたため、2000年頃（260万人）から人口は増加に転じ2010年の人口は267万人。そして1995年の阪神・淡路大震災では一時的に人口が増加するものの、1991年のバブル崩壊などの経済的な理由で人口は減少傾向となる。しかし2000年に人口は増加に転じ、2010年までの増加は緩やかに続いている。ただそれほど大きな増加ではなく、1990年頃からはほぼ横ばいとなっている。人口の市内分布としては特に大阪市中心部の中央区、天王寺区、西区などに集中しており、逆に大正区、西成区など的大阪市の南部、西部で減少している。
 - 5) この地図の元となった白地図は国土地理院からダウンロードしており、加工にはフリーのGISソフト『MANDARA』を使用している。
 - 6) ここでは詳細なデータを示さないが、大阪市全体の事業所数は1991年～2009年までは減少している。区単位でみると、天王寺区以外は事業所数が減少している。また産業別の事業所数を見ると、卸売・小売業（2009年に56,884か所）、飲食・宿泊業（2009年に31,670か所）の事業所数は常に多くある。事業所数は1960年に約9万存在していたが、1980年ごろには約14万事業所まで増加したが、その後は減少している。また、近年は先述の業種の次に多いものがサービス業で、1960年ごろから増加していき、1981年には製造業の事業所数を抜き1996年の60,000か所をピークとして減少に転じた。同じく製造業では減少傾向であり製造業出荷額なども1990年ごろがピークとなっており、その後は減少の傾向に転じている。
 - 7) パルプの原料である木の皮を剥がしやすくするための薬品であった。
 - 8) 東京全体は1965年あたりから急激な減少などではなくほぼ横ばい、千葉県は1980年頃から毎年約10万人ずつ増加、その後の人口増加は穏やかになり、2010年をピークに2013年までは減少している。

参考文献

- ・エンタテインメントビジネス総合研究所編、『駅別乗降者数総覧』、エンタテインメントビジネス総合研究所、1996年～2011年

- ・大阪市計画調整局企画振興部統計調査担当編, 『大阪市統計書』, 大阪市都市工学情報センター, 平成2年～23年
- ・大阪府警察ホームページ
http://www.police.pref.osaka.jp/05bouhan/tokei/index_1.html 2013年12月30日確認
- ・岡美彩「此花区の変遷」『中村組論集』第5号, 2013年, 97-125頁。
- ・浦安市分譲集合住宅実態調査報告
www.city.urayasu.chiba.jp/secure/21143/jittaicyouasa.pdf 2013年11月22日確認
- ・浦安市ホームページ <http://www.city.urayasu.chiba.jp/> 2013年8月13日確認
- ・オリエンタルランドグループ <http://www.olc.co.jp/index.html> 2013年8月12日確認
- ・国土地理院 <http://www.gsi.go.jp/> 2012年8月2日確認
- ・地理情報分析支援システム MANDARA <http://ktgis.net/mandara/> 2012年9月24日確認
- ・ドリームハウス西島（新築分譲住宅） <http://dreamhouse-up.jp/torishima/> 2013年11月26日確認
- ・HOMES不動産投資 <http://toushi.homes.co.jp/owner/osaka/city270104/machi.html> 2013年10月11日確認
- ・JRおでかけネット <http://www.jr-odekake.net/eki/timetable.php?id=0612204> 2013年7月22日確認
- ・OSAKA ビル景 <http://bb-building.net/project/usj2.html> 2013年8月13日確認
- ・RBBTODAY <http://www.rbbtoday.com/article/img/2013/03/15/104747/275444.html> 2013年9月23日確認
- ・SUUMO関西版
http://suumo.jp/ms/chuko/osaka/sc_osakashikonohana/ 2013年11月28日確認
- ・UR都市機構賃貸住宅関西エリア
http://www.ur-net.go.jp/kansai-akiya/osaka_chu/1660.html 2013年11月28日確認